

神に称賛される私たちの生き方

～ふさわしい生活＝経験から～

ピリピ 1:27 ~ 30

■ 悩まない人生

スティーブン スピルバーグという映画監督がいます。彼は、撮影のとき悩まないそうです。なぜ悩まないのでしょうか？彼はゴールがわかっているからです。途中がどうであれ、そこに行けばいいわけです。だからリハーサルはしないそうです。リハーサルをすると、そこで労力を使って、本番元気がなくなるからだそうです。みなさんは人生のリハーサルをしますか？できません。人生も毎日が本番です。あなたのその日その日が積み重ねです。いま先が見えなくても大丈夫なのです。あなたが諦めなくて信じていけば、一時あなたの望み通りにならなくても、それが意味があって、それはこうだった、と後になってわかります。結果、あなたの人生にとって有益になります。だから私たちが願わなくてはならないのは、その途中ではなく結末がどうなのか、ということです。私はここに行くんだ！ということがわかっているならば、途中はどうであっていいのです。

■ ふさわしい生活

「ふさわしい」とは何ですか？ふさわしい生活は経験から学べ、ということです。ふさわしいかふさわしくないかは、多くの場合、自己判断でなされます。聖書に何を書いているかという、その人の経験です。その人がどうやって生まれてどうやって死んだのか、それが書いてあるだけなんです。私たちは知っています、聖書の中の歴史から。ふさわしいのは何なのか？どうして彼がふさわしくなかったのか？はじめからふさわしくなかったのか？私たちは自分よがりのふさわしいを選ぶと自信を失います。なぜかという、私たちが勝手に決めたふさわしいかふさわしくないかは、間違っているからです。子育てがそうです。親はみんな愛する子のために良かれと思ってします。でも失敗することがあります。なぜでしょう？それは、父として、母としての経験がないからです。でも聖書にはどうやれば良いか、ちゃんと書いてあります。ふさわしい生活は経験からしか学ぶことができません。ところが、私たちは経験から学ばず、知識から学ぼうとしてしまいます。だから神さまは私たちに経験をさせます。

ピリピ 1:30 に「経験しているのです。」と書いてあります。何を経験しているのでしょうか？ピリピ 1:29 に「苦しみを」と書いてあります。苦しむことを経験しているのです。パウロは、ピリピの人たちに経験させたかったのです。なぜ、ふさわしく生活しなさい、ということばをわざわざ使ったのでしょうか？パウロは、ユダヤ人としてルールと規律を学んで生きてきたけれど、ローマ市民としてうまくやる方法を知ったのです。経験したのです。どうやったら人をうまく動かせるか、牢獄の中にあるけれど、人生の痛みの中にあるけれど、その痛みも経験して、痛みを通るとうまくいくんだと経験したのです。

■ 私たちのトリセツ (取り扱い説明書)

ピリピ 1:27 「福音の信仰のために」とあります。良い知らせを信じることができるようにあなたは奮闘しているのだ、ということです。だからこの経験は、将来あなたに起こる良い知らせを信じることができるためだ、ということばを言っているのです。

神さまは、あなたに神の国の市民権を与えて、あなた自身がどうやって生きれば良いかをちゃんと教えて、あなたが自分で決断できるように育てて、いざというこれからの難しい時代に、そこをあなたが問題なく、最後あなたに約束されたものを勝ち取るために神さまが教えた方法は、経験して知れ、ということです。

あなたが人生で苦難にあったときうまくいく方法は、経験したことをすればいいのです。でも経験したことがないことがほとんどだから、聖書を読めばいいのです。聖書の中には、どうやったら失敗し、どうやったらうまくいったかを経験した人のことが書かれているのです。自分の判断で決めないでください。ふ

さわしい生活は、聖書の中に出てくる人物を見れば、どうやって生きたらふさわしいかわかります。

■ 経験という祝福

あなたがその場所に生まれて、その場所に置かれて、今そこを通っているときに、あなたがそこで学べれば豊かな祝福が待っている、と聖書は教えていることを知ってください。パウロはそのことを命をかけて牢獄の中から伝えていきます。間違ったことをしてはいけない、親であるものはどうあるべきか、子どもはどう生きるべきか、私たちがどう進むべきか、どう判断すべきか、子どもたちはどう経験すべきか、面倒くさいからやらないのではなくて、苦しいから逃げるのではなくて、誰かを恨んで人のせいにするのではなくて、あなたがそれを経験できたことで、あなたは多くの祝福を受けるのだとパウロは言っているのです。答えはわかっている。その答えを得るために、あなたは右にも左にもそれではならないと伝えているのです。

私たちは一時の感情に流されやすいものです。神さまはコツコツコツその人を成長させながら、その人がその人のふさわしい人格になったときに、その人に任せられるギリギリのものを任せるのです。任せられているということを知ってください。そして小さなことに忠実なら、あなたは多くのことを任せられるのです。すると、結果、あなたは祝福されていくのです。

親は子に経験をさせなければいけません。子どもは苦しい環境の中にあるとき、自分の思ったとおりにならないときにそれを乗り越えなければいけません。そうでなければ、あなたの願いは生涯かなうことはありません。親の願いもかなわなければ、子の願いもかないません。あなたが親の立場として色々な領域で人々に経験をさせてあげること、同じようにあなたが経験させられたのなら喜んで乗り越えること。特にあなたの願ったとおりでない環境が今あなたを支配しているなら喜んでください。

■ 最後に…

あなたはこの世にあっては艱難にあいます。なぜなら、あなたは経験しなければならぬからです。あなたが願ったようにはまだならない。でも、あなたが乗り越えるとき、あなたの領域は少しずつ、あなたの信頼は少しずつ広がっていきます。気づいて後ろを見ると、あなたによって良い影響を受け、あなたによって助けられる多くの人が与えられるのです。

キリストは私たちに生き様を見せたのです。良いことばを残したのではなく、生きたのです。そして死んだのです。生きるという死に様です。

みなさん、間違った考えを持たないでください。あなたがやらなかったことを次の世代がやるわけがない、あなたができなかったことをできるわけがない。だからこそ、今、チャレンジするのです。あなたが乗り越える姿を見て、子どもは乗り越えていきます。あなたが戦う姿を見て、子どもは諦めないんです。でも、私たちは弱いのです。できないのです。だから主に頼むのです。

「主よ、私の心をつくりかえてください。弱い私の心を癒やしてください。誰かのせいにして、誰かに依存して生きようとする弱さをとってください。あなたがご自分を無にしたのだから、私も自分を無にしてください。植えられたところに喜んで生きます。」

(要約者: 秋山恭子)

(2021年10月10日)